パートナーシップ資料

カイディンの日本インスタレーション紀行
『奥の細道』を辿って

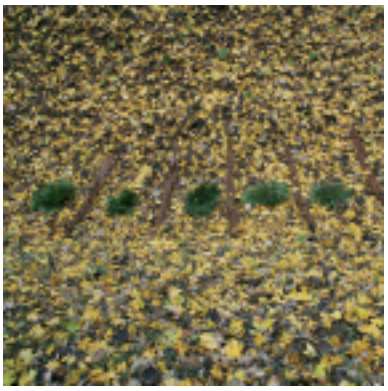


写真
ウーブェ・オメール
Uwe Ommer

連絡先
Régine Feldgen （レジーヌ・フェルジャン）
regine.feldgen@free.fr

フランス人アーティスト、カイディンはアフリカにも住み、そこで作品の大部分を制作しています。「日本インスタレーション紀行、『奥の細道』を辿って」は現在進行中の彼女の新しい創作の旅プロジェクトですが、その紹介の前に、この企画の意義を理解していただきましょう。

トランスカルチャーな広がり

体に異なった文化の血が流れる芸術家カイディンは、創作旅行で、ヨーロッパ、アジア、アフリカの関係を組み合せ、トランスカルチャーな広がりを与えます。

松尾芭蕉像の前のカイディン

日本の文化と俳句：このプロジェクトにより、禅の思想の基本と現在の日本人の感性を代表する、俳句という形の詩文学が理解できます。カイディンは、俳句の大家、松尾芭蕉の跡を追い、感覚、映像そしてリズムによって、瞬間的な感動と心の状態を想い起こさせようとした彼の俳句からインスピレーションを得ます。彼女は人々を、彼女の旅の追跡に誘い、17世紀の放浪の精神が現代に生きられる様子を見せてくれます。

「旅」の概念と彼女のオープンな精神：カイディンは「放浪の魂」持ち、彼女の旅は、自然の中での思索と物体とアクションが創作プロセスとなる領域に依拠しています。旅行は出合いに不可欠な瞬間であり、夢中となり、また危険を冒して新しいものを得る体験の基盤として生きられます。

ランドアートのコンセプトの近さ：空間との関係、瞬間の中で本質に向かう「場特有のインスタレーション」は、アートと生活を結び付けようとするランドアートを思わせます。インスタレーションの写真は稀に見る美を映し出し、自然とハーモニーした状態に我々をひたらせてくれます。

「松島の扉」

環境問題への参加

地球の市民になる：自然を観察する楽しさを取り戻し、そのメカニズムを理解して自然への破壊的態度を止めるようにしようとします。
対立するよりも「共に」あることからなる、非常に複雑な相互作用です。
「束の間のインスタレーション」によりカイディンは人々に世界の壊れやすさへの注意を伝えようとしています。

本当の環境問題への参加にイメージを与える：カイディンの日本インスタレーション紀行は、我々の環境への人間の意識のビジュアルで詩的なメッセージです。彼女は、アートと詩をとおして共通の意識へ至ることのできる場所で制作します。

カイディンの日本インスタレーション紀行

2007年秋、カイディンは写真家ウーブェ・オメールを伴って北日本の旅路を巡りました。

コートジボワールのタイの森での「物神の国」の旅の後、カイディンは大陸を変え、俳句の大家、放浪の詩人、松尾芭蕉の足跡を追うことにしました。

カイディンは主にこのミニマリスムの詩から、そしてまた俳人の精神と放浪生活からインスピレーションをもらいます。このさまよいと詩の旅路に、カイディンは自分独自の感性を持ち込みます。俳句の極端な飾りのなさに呼応しつつ、彼女は「束の間のクリエーション」の中で本質に向かうのです。

彼女の作品は、常なる自然の誘惑から感動を湧き上げ、過渡的な状態を視覚的に書写し、現実から空想、実態から写真像へのパッセージを定めるための孤独な歩みから生まれます。

この旅行は、芭蕉と日本の哲学を現代的眼差しで見る、一冊の本となるでしょう。ルポルタージュフィルム、巡回展、それに関連した「放浪のアート」についての公演、討論会、「束の間のアート」のワークショップが、日本、フランス、その他の国々で予定されています。

旅程

秋の旅程
日光　那須　殺生石
芦野　白河
須賀川　山寺
松島　平泉
北上　象潟
鳴子　羽黒　酒田
最上川　金沢
山中

春の旅程
大垣　福井　永平寺
敦賀　市振　新潟
市振の国
出雲崎（越後の国）
佐渡対岸　酒田　象潟
平泉　北上
松島　仙台
芦野　日光

作家のポートレート

カイディン

放浪の魂
カイディン・モニク・ル・ウエラーは独学の彫刻家です。ベトナム生まれで、アフリカ育ち、思春期からコートジボワールで暮らし創作しています。

1977年にアビジャンで初の巨大彫刻を鉄で制作。1982年以来イタリアのジオルジーノ・アンゲリの工房で大理石彫刻を始め、工房では特に彫刻家ノグチ・イサムと一緒に仕事をしました。

その後、旅行とアフリカでの生活が芸術的アプローチと心の歩みに変化をもたらし、自然の中で自然の要素を使った、場特有の創作へ向かます。

この新しい、松尾芭蕉の足跡を辿る旅では、彼女は俳人の「精神」にひたりきりながらも同時に、「地球の街道」(コートジボワールのタイの森での『物神の国』の旅と、砂漠化する地域であるアビジャンからトンブクトゥへの旅)のような、以前の放浪の歩みとの普遍性とに結ばれた体験をします。

「猿の頭」 物神の国

「森の秘密と水の不思議」
2006年　Fages 出版

「砂と水と塩」
1996年　Adam Biro 出版

ウーブェ・オメール

写真家
三千年紀の黎明、ウーブェ・オメールは写真史唯一の作品集、地球の家族のアルバムを世に出しました。『1000の家族』は膨大な肖像のコレクション、2000年にタッシェンより出版された。

カイディンは我々現代人の魂の窓を本当に開くことを知っているこの写真家に、彼女の「束の間のインスタレーション」の写真撮影を任せました。

古池や
蛙飛び込む
水の音
松尾芭蕉

俳人松尾芭蕉からのインスピレーション

インスタレーション紀行を実現するのに、17世紀の放浪の俳人、松尾芭蕉の世界に入り込むため、カイディンはアンリ・ブリュネルの「俳句の賢者と狂人」など、俳句についての本と禅の思想に関する本の読書に没頭し、旅路での俳人の精神を把握しようとしました。

俳句の大家、芭蕉は僅かな音節と僅かな語で、移りやすい感情を表現しました。彼は束の間と永遠との相互浸透を謳い、最小のイメージの喚起で、瞬間の本質、精神状態を捕らえました。

カイディンは俳句の中に、感動をわき出させるために本質に向かうという、自分が以前の作品で要求したものを見い出します。
単純性、本質のありのままの軽妙さなど、禅の心とインスタレーションを制作する時の心の状態とに、彼女は類似性を感じます。

放浪の生活

旅人と
我が名呼ばれん
初時雨
松尾芭蕉

カイディンと芭蕉は、詩情と自然との関係において繋がりますが、旅のコンセプトにおいても同様です。それは「死すべき運命と不死性が、瞬間の美の中に映る」という二元性の素晴らしい例です。

放浪の人、芭蕉にとって、絶えざる変化は宇宙の基本原則です。旅のみが多数の作品を生むのであり、それ自身が作品と見ることも可能です。

夏草や
兵どもが
夢の跡
松尾芭蕉

「ランドアート」に近い
「束の間のインスタレーション」

藁の軍隊（部分）

藁の軍隊（北上にて）

現代アートの一つの傾向

空間と場所との関係、瞬時の作品という面で、彼女の「場特有のインスタレーション」は、アートと生活を結ぼうとする「ランドアート」と直接関連づけられます。

カイディンは直接自然の中で制作し、彼女のインスタレーションは自然の力にさらされ、侵食にまかされます（松島の冬のコート）。

ゆっくり時間をかけ、空間、つまり環境と自然素材（木、土、石、砂、岩など）を受容し、彼女は付け加えたり切り除いたりするのではなく、ネーチャーとカルチャーのバランスを微かに変容させ、動かし、調和させます。
しかし制作アクション、インスタレーション、あるいはコンセプトよりも、彼女は旅行から、可能性を持ち帰ります。遠く離れた土地に旅立った時、写真が重要な役割を担います。撮影された写真は制作場所を見せるだけではなく、作品の構成、システムとしての構想を表現します。作品は写真によってしか後に残らないのです。

カイディンの芸術的アプローチ

不測に作用させる

不測の出来事を創造性の源として利用する制作プロセス

「絶壁の崖のように凝縮した精神を維持すること、それは集中を意味する。しかしそれは受動ではなく極めて能動的な状態での集中である」

「禅の道」
鈴木大拙

「起きる事柄を起こさせ、不測の出来事とその突然の素晴らしさを作用させなければならない」

カイディンはインスタレーションの過程で、新しい方向性をみつけるため、あるいはクリエーションの領域を広げるために、偶然の瞬間に働きかけます。彼女はよく不測の変化に直面し、それから新しい展望を開き、「突然の素晴らしさ」を含み込む姿勢と能力を発展させました。

不測の出来事に対応するには、我々の通常の行動様式に比べ、即興とイノベーションの才能が要求されます。

静寂の必要性

禅の静寂、彼女の創作に必要不可欠な要素

「静寂の句読法」白河にて

「禅の静寂は獲得、冒険、無限に向けて開かれた扉です」彼女はこの静寂さの必要性を、すでに以前のアフリカでのプロジェクトで経験しました。それにより、望まれた孤独な時間に精神的な遮断ができ、創造時に集中ができるようになるのです。

白河で作られたインスタレーションの一つ「静寂の句読法」は、恵みある静寂に完全にひたりきったことでインスピレーションが与えられました

「偶然に敏感にする『移動法』としての放浪」「途上、ランドアート」アン・フランソワ・パンデル

「水の筆記」浦見にて

旅のみがカイディンの作品を生み出します。インスタレーションであれ、手帳、まとまったデッサン、あるいは写真であれ、旅の紀行を通して彼女は固有の移動性を発展させます。

芭蕉の道を彷徨いながら、その移動のモチベーションの中に、「場特有のクリエーション」を実現するための自らの制作様式を見い出します。「移動として辿ること自体が場所を獲得することでありえます。こうして旅は停泊地となり、時に自らの理解への道にもなります」(*p145)

放浪主義について語りましょう。「それは作品として、行動、物体、思索の動きに依拠することであり、そしてまた、異なった基準に対応し、それゆえ人と物事との間に特別な関係を導く異なった価値観によって機能する『別世界』に依拠することです」(*p142)

*ランドアートに関する著作、アン・フランソワ・パンデルの「途上、ランドアート」からの抜粋

カイディンへの支援参加

展覧会

展覧会では、北日本の芭蕉の足跡を辿るカイディンの旅と、ランドアートのコンセプトから俳句の詩情に至る、彼女のユニークなアプローチを紹介します。沢山の写真と文化的意義に富んだ展覧会です。

来場者：「日本好き」の人々のばかりか、知りたがり、旅行ファン、環境問題に関心のある人々が来場者の対象になります。展覧会の写真は、その美しさと独創性、その簡素さと純粋さで人々を魅了するでしょう。人々は「元々あるものなのか作品なのか」という見る遊びに必ずすぐに誘い込まれます。

展覧会はその様々な重要な意義の周りに幅広い関心を集め、また人々と感動を分かち合います。

展示法：写真は室内に展示できますし、より広い層の人々に触れるよう、庭園の中、公園の鉄柵、美しい散策の場などに、大きなプリントでの屋外展示も可能です。
計画：最初の展覧会は2009年初頭に東京にて予定されています。その後は、日本、フランス、アフリカ、その他の国での巡回展を目標にしています。

「白鳥」酒田にて

展覧会を軸にしたイベント

作品集、アーティストと色々な人々との出会いの会、環境保護に携わる人々との共同セミナー、俳句に関する文学のワークショップ、そして日本の旅のルポルタージュ映画など、展覧会に組み合せた様々な企画を準備しています。

作品集の出版：インスタレーションの写真、旅行ノートのデッサン、アーティストの印象や紀行文などを纏めます。テキストでは、芭蕉の俳句と芸術的コンセプトとしての「旅」との関係を論じます。
アーティストと著者とに出会う「本の献辞会」は、皆様の特別メンバーへの特典的集りを催すよい機会を提供します。

「永遠と束の間の相互浸透」
酒田にて

会場でのインスタレーション：カイディンは展覧会を引き立たてるため、パーフォーマンスの形でインスタレーションを実現します。異なった層の来場者とマスコミを呼べる、会期中のクライマックスを作る素晴らしい方法です。

ルポルタージュ映画の放映：日本の旅行中に撮られた映画です。映画の後に「流浪のアート」をテーマの講演、ディスカッションを行うことも可能です。現代俳句の作家、アマチュアの俳人、環境と関連した仕事をする他のアーティスト、エコロジー学者や運動家などが交わる機会となります。

「あ　うん」最上川にて

「束の間のクリエーション」の実践ワークショップ：小学生から大学生、あるいは企業の会社員を対象に、アーティスト自身がワークショップで教えます。実際に作品を作ることで、この形のアートへの人々の関心を呼び覚ます。カイディンとのワークショップに参加することにより、彼女のユニークな制作プロセスとクリエーション手段にヒントを得、思考の道筋を理解し、我々を囲む世界に対して異なった見方をグループで分かち合うことができます。環境に耳を傾け、分かち合うことを勧める実践的なアトリエです。

皆様の必要と希望に応じたパートナーシップと我々の情熱を結びつけ、オーダーメードで活力ある広報活動がもたらす結果の国際的影響力をご享受下さい。

ご参加ください

美術の世界で知られ活躍する女性アーティスト、カイディンは、皆様に彼女の現在進行中のプロジェクトを支援し、日本文化への新しいアプローチに参加する可能性を提案致します。

彼女の以前の作品は幾つかの国際的な賞を受け、2007年の中国での活動はパリのケ・ブランリ美術館の常設壁画となりました。

我々はこのプロジェクトを最良のコンディションで実現するための予算を保証するため、皆様にお目にかかることを願っています。

分かち合われた価値の創造

異文化の血が体に流れるカイディンのクリエーションの旅は、人間性、多様性、革新、そして冒険という価値に溢れています。彼女の仕事の秀でた面は、その写真の美しさばかりではなく、彼女が旅の中で紡ぎあわせる人間関係と文化を越えた出合いです。

経営面：分かりやすく、内容が適切なこのカイディンの新しいプロジェクトは、貴社の従業員を、文化と環境問題への参加という人間共通のビジョンの周りに集めるために効果的でしょう。カイディンのプロジェクトに参加することで、貴社は企業倫理を一層良い形で示し、国内、国外での企業活動を目立たせることができます。

社内引力：カイディンは企業の内部で、実践的なワークショップや「場特有のインスタレーション」を行うことを提案します。アーティストとの出合いは、仕事の脈略を離れて職場の同僚たちが触れ合いあう素晴らしい機会となるでしょう。仕事の空間をアートのインスタレーションで変貌させるのは、貴社の顧客の方を驚かせる、あるいは通常の雰囲気を変化させる良い方法です。

社員教育：社員に現代アートのクリエーションの世界への関心を起させ、造形作家と写真家と制作のプロセスを共有して下さい。美術界で確立した名のある二人のアーティスト、カイディンとウーブェ・オメールは、彼らの経営セミナーへの参加を提案します。

広報：カイディンの旅行を通して、独創的な文化的座標を企業内部に創り出して下さい。外部へは広報に写真を利用します。写真を使った品物（企業プレゼント、手帳、カレンダー、名刺、ポスターなど）でご顧客を驚かせてください。

皆様の参加はプロジェクト全般にも、あるいは皆様が共有したいと思われる、以下のようなプロジェクトの一部に限定してでも可能です。

展覧会の開催
技術的ロジスティック、写真のプリント、屋外展示のセッティング

本の出版
日本での創作旅行の写真の入った作品集（2008年末出版予定）

「瞑想の道」　浦見の滝にて

交流のチャンス

広報活動
このパートナーシップはヨーロッパ、アジア、アフリカの三大陸におよぶカルチャーネットワークに参加するチャンスです。それは非常に特権的な会合、講演、あるいは異なる国と関連した旅行など、交流に富んだ文化網です。

アーティストと彼女の招待客と共にガイド見学、パーティーを楽しみください。

カイディンの旅行記をポケットに入れてご旅行下さい。

ビジビリティー
プレスキャンペーン
（招待状、開会式の挨拶、プレス資料など）に参加していただきます。

PR資料のすべてに貴社のロゴマークを入れさせていただきます。

すべての公式行事にご招待致します。

マスコミ以下のテレビ局と関係を持っています。
NHK, France Télévision（フランス国営テレビ局）、Communauté Radio TV francophone (CIRTEF)（フランス語ラジオテレビ共同体）、読売テレビ、Arte, TV5, RTBF, Planet, Voyage.

参考資料

カイディンの経歴
展覧会と図書
ウーブェ・オメールの経歴
松尾芭蕉と俳句
プロジェクトスタッフ

「永遠と束の間の相互浸透」酒田にて

カイディンの経歴

「瞑想の道」　浦見にて

個展

1985年　フランス　サン・ポ–ル・ド・ヴァンス　アレクサンドル・ド・ラ・サル画廊
1988年　フランス　パリ　LOFT画廊
1990年　フランス　アングレーム　アングレーム美術館
1990 年　フランス　パリ　アンリ・ヴァン・メル画廊
1991 年　フランス　パリ　アンリ・ヴァン・メル画廊
1993年　コートジボワール　アビジャン　フランス文化センター
1994年　フランス　パリ　サミー・キンジェ画廊
1995年　日本　東京日仏学院にて彫刻展
1995 年　マルティニック　ヴァンサン・ブラコニー文化センター
1995年　日本　東京　シチズン画廊
1995年　フランス　パリ　ローラン・ランベール画廊
1997年　フランス　パリ イエローグラフィック
1998年　フランス　カオール　アンリ・マルタン美術館
1999年　日本　東京　ギャラリーグリオン、
　　東京　早稲田大学にて講演「東の間のアートとアフリカの環境」
2001年　コート・ジボワール　アビジャン　フランス文化センター
2002年　セネガル　ギャラリーアルテ　DAK'ART 2002 OFF
2002年　セネガル CCF　DAK'ART 2002 OFF
2002/3年　ニューヨーク　コンテンポラリー・アフリカン・アートギャラリー
2003年　フランス　マルセイユ　PARK'ART
2004年　フランス パリ　サミー・キンジェ画廊
2006年　フランス パリ上院美術館オランジュリーにて　「放浪の魂（NOMADE DE L'AME）」展
2007年　中国 陝西地方xiaocheng村にて
　　インスタレーション「ドラゴンに捧げる水 (De l'eau pour le dragon)」

グループ展

1987年　フランス パリ モンルージュサロン
1988年　イタリア「イサム・ノグチへのオマージュ展」
1989年　イタリア　ヴェローナ　イディオミ・デラ・スキュルチューラ・コンテンポラネア
1990年　フランス パリ モンルージュサロン
1992年　マルティニック　トリニダド　サン・ルシー巡回展
1992年　フランス パリ FIAC（国際現代アートフェア）出品　サミー・キンジェ画廊
1992年　セネガル　ダカールビエンナーレ出品
1994年　フランス パリ エスパスHAVASにて「アートは主張する」出品
1994年　ドイツ　ドュッセルドルフ国際アートフェアー　ミッシェル・ブルッタ画廊
1994年　スペイン マドリッド国際アートフェアー　ミッシェル・ブルッタ画廊
1994年　「アフリカ、この創意に満ちた大地」展　カナダ　ケベック文明博物館にて
1995年　「アフリカ、この創意に満ちた大地」展　アビジャン美術館　コート・ジボワール
1997年　「アフリカーUSA」米国　アトランタ
1997年　フランス パリ FIAC（国際現代アートフェア）出品　サミー・キンジェ画廊
1998年　ドイツ　ドュッセルドルフ国際アートフェア　ミッシェル・ブルッタ画廊
1998年　フランス　ストラスブルグ ST'ART 98　パトリック・ゴーチエ画廊
2000年　ハノーヴァー万博2000　アフリカ館 大賞受賞　高さ15mの彫刻「生命のシンボル」
2000年　フランス　シェルブール シアターギャラリー
　　「Les Objecteurs-Art makers　アランジュフロアの周辺で」展
2000年　フランス　ポアチエ コンテンポラリーアートセンタ「大地の使者」展
2000年　フランス　ドール ドール美術館「Les Objecteurs-Art makers　アランジュフロアの周辺で」
2000年　カナダ　ケベック文明博物館「アフリカの女性創始者達」
2000年　フランス　カンペール パトリック・ゴーチエ画廊
2000年-2001年　フランス　アンジェ アンジェサロン　「アートは問う」
2001年　フランス パリ ART PARIS 国際アートフェア　サミー・キンジェ画廊
2005年　フランス モンルージュサロン５０周年記念展
2005年 日本　愛知万博2005「戦争のさかさま」
2005年　フランス　「様々なアフリカ２」　アールデルニエ　FIAD画廊にて
2007年　中国 xiaocheng　第一回国際農民芸術祭
　　北京ボーザールアカデミー教授　JINZHILIによる招待企画で
　　ブルキナ・ファッソのカッセナの女性たちと壁画の共同制作
　　フランス　グルノーブルMJC　パリ　ケ・ブランリ美術館　カセナの壁画
　　ドミニク・ド・ヴィルパン首相へタパの壁画の寄贈

受賞暦

２０００年
「生命のシンボル」（高さ15m）
ハノーヴァー万博2000
アフリカ館　大賞受賞
ドイツ首相ゲハルト・
シュレーダーにより除幕される

「アフリカ建国の女性たち」
ケベック文明博物館
作品は当博物館が購入
展覧会ポスターにも使われる

図書とフィルム

作品集

「砂と水と塩」　１９９６年、写真　フランソワーズ・ユギエ
序文　ヤクバ・コナテ、　テキスト　アラン・ジュフロア、ジャック・レナルト
Adam Biro 出版

「 森の秘密と水の不思議 」2006年　Valia 叢書
序文　ドミニク・ド・ヴィルパン、　テキスト　アラン・ボレール
Fages 出版

「 森の秘密と水の不思議 」
2006年　Fages 出版
126 頁、ISBN 2849750654

フィルム

ルポルタージュ「不可視の扉」テレビ用ルポルタージュ、監督 マンスール・ソラ・ワヅ、
1996年　TV5にて放映

ヴィデオルポルタージュ（26′）「 森の秘密と水の不思議 」 監督 ステファン・ ボニ・セカ、
1999年

ルポルタージュ「日本インスタレーション紀行、『奥の細道』を辿って」
2008年

発注作品

コートジボワール

スチール彫刻　（高さ７m）
大蔵省
1977年、 アビジャン

大理石彫刻　（高さ2m）
保険会社MANS
1984年、 アビジャン

大理石彫刻
「奉納」（高さ6m）
1985年、 アビジャンのカテドラル

大理石彫刻　（高さ4m）
海洋アカデミー
1987年、 アビジャン

インスタレーション　「森に耳を澄まして」
2001年　文化会館に寄贈

インスタレーション　「自然に耳を澄まして」
世界環境の日
マンの大滝の復興
2001年　環境賞

「砂と水と塩」
1996年　Adam Biro 出版
112 頁、 ISBN 2876601931

ドイツ

彫刻
「生命のシンボル」(高さ15m)
アフリカ館　大賞
2000年　ハノーヴァー万博

日本

建造物作品

「カラオ・ツリー 」
2003年　パークホテル　東京

写真家ウーブェ・オメール

ウーブェ・オメール
アフリカにて

2000年以来の
「1000の家族」展の一例

2000年 ケルン（ドイツ）
ホンヘンツォーレン橋

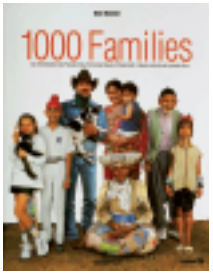
2001年　パリ（フランス）
国会

2002年　都均と天津（中国）

2003年　ブリュッセル
（ベルギー）
植物園

2004年　シカゴ（米国）
ミレニウムパーク

2005年　ジュネーブ
（スイス）
国連60周年記念祭



「1000の家族」タッシェン出版 2000年

「トランジット」タッシェン出版 2006年

経歴

若い時から写真に魅了されたウーブェ・オメールは、1962年に某写真家のアシスタントになります。数年後に自らのスタジオをオープン、ファッションと広告の写真を手掛けます。

名が知られるにつれて、写真を展覧会で発表、1979年にはプライベートな作品と広告用の写真をもとに、最初の本「ウーブェ・オメール写真集」を制作。その後５冊の本を出版します。

1995年、彼は大胆にスタイルを変え、野心的なプロジェクトを決行します。それは千年紀の変わり目において全世界のあらゆる種類の家族の目録を作るというものでした。４年間にわたり130ヵ国以上の国で撮られた膨大なポートレート集を持って帰国します。その写真は世界中を巡る展覧会となりました。

タッシェン(Taschen)社より出版された写真集「1000の家族」の後、ウーブェ・オメールはその一大写真旅行の舞台裏を「トランジット」と題された陽気で愉快な旅行スケッチ（タッシェン出版）として発表します。
錯綜したグラフィズム、切り張りされた画像、数々の品物と おかしな話が、1424日間の信じがたい、文化の多様性の発見世界ツアーを追体験させてくれます。それらの写真は一つの共通点を持っています。それはこの本に'スマイル'という エスプリを与えています。

2002年彼はその仕事の強い影響力にたいし、王立写真協会の名誉会員に任命されました。

展覧会

ヨーロッパ、米国、アジア、アフリカで今日までに30以上の展覧会、「1000の家族」は、公共の広場、公園、あるいは川沿いなどに野外展示されました。

作品集

「1000の家族 (1000 Familles)」
この本は、地球の家族のアルバムを作り、20世紀の生活のユニークな写真遺産を築くという、ウーブェ・オメールの賭けの結果です。（タッシェン出版）

「家族 (Familles)」
50人以上の世界中の子供が、家族、国、習慣、仲間、日常のこと、何を食べて何をしているかを話します。子供の眼を通しての世界一周の旅。各国は見開き２ページで紹介されています。（Seuil 出版）

「トランジット（TRANSIT）」
雑誌でありアルバムであるこのユニークな本は、独創的なページ組みとおかしい逸話で、「1000の家族」作成のために写真家ウーブェ・オメールが世界を巡った大旅行をたどります。（タッシェン出版）

受賞歴
2002年　プトレマイオス賞　国際地理フェスティバル、
サン・ディ・デ・ボージュ（フランス）
2003年　青少年出版賞　青少年図書サロン、モントルーユ（フランス）

水、石、苔、折り紙
殺生石近辺

松尾芭蕉（1644年〜1694年）と俳句

歩行は魔法の手段

芭蕉は禅の思想に影響された後、自らの存在を深く掘り下げると同じく、自分の仕事の深化を達成します。彼はしっかりと経験に基づく詩の実践に向かいます。自然との接触に養われ、蘇らされる詩です。俳句は彼の手により、まさに生命の瞬間となったのです。

1684年秋、40歳にて芭蕉は巡礼生活を始めます。
1689年の春の終わり、北日本の街道の旅へ、弟子の曾来を伴って旅立ちます。江戸、深川の芭蕉庵から大垣まで、全行程2500km、５ヶ月でこれを成し遂げます。総計５つの紀行文が詩的な放浪を区切ります。

俳句、非常に形式化された詩

俳句という名は松岡子規（1867〜1902）によって当てられましたが、それは日本で生まれた、非常に象徴的に構成され、形式化された詩の一形式です。もののはかなさを極端に簡明に語ることを目指す詩です。今でも俳諧（あるいは起源の発句）と呼ばれることもあるこの詩は、伝統的には17の音を縦書きで記されます。
俳句が西洋に知られるようになったのはまだ１世紀ばかり以前です。西洋の詩人はこの短い詩形式のからヒントを得ようとしました。多くの場合は日本の俳句を、5、7、5の音節を持つ三行詩の形にして、西洋俳句として移し換えることを選びました。俳句をフランス語で書く時は、一般に音を音節で置き換えます。しかしフランス語の一音節は日本語の三音まで含みうるので、自由詩が生まれます。（フランス・ウィキペイアより）

冬の北風　山中近辺

木枯や　竹に隠れて　しづまりぬ

田一枚　植えて立ち去る　柳かな
（芦野にて）

閑さや　岩にしみ入る　蝉の声
（山形にて）

涼しさを　我宿にして　ねまる也

風流の　初めや奥の　田植歌

「奥の細道」の俳句からの抜粋

プロジェクトスタッフ

製作
カイディン・モニク・ル・ウエラー
Kaïdin ML Houelleur
www.kaidin.net

「飛翔の願望」部分　象潟にて

写真
ウーブェ・オメール
Uwe Ommer
www.uweommer.eu

日本広報
波嵯栄　ジュフロワ　総子
Fusako Hasae Jouffroy
電話 : +33 (0)612 982 266
Mail - de.signe@wanadoo.fr

日本での連絡先

Takeo Hayano
tel 03-5565-6805　fax 03-5565-0130
e-mail　hayano@e-art.ne.jp

Osamu Furumura
tel 03-5547-7001　fax 03-5547-7007
e-mail　furumura@seesaw.co.jp

広報
レジーヌ・フェルジャン
Régine Feldgen
Tél : +33 (0)674 828 909
Mail - regine.feldgen@free.fr

総コーディネーター
ドゥニ・ゴーティエ
Denis Gautier
Tél : +33 (0)6 609 572 165
Mail - denisgautier46@gmail.com
www.kaidin.net